

令和6年度学校自己評価システムシート (県立与野高等学校)

S10

目指す学校像	「二兎を追い、獲得する」をモットーとして、学力と創造力及び他者を尊重する心を育み、一人ひとりの進路実現を目指す学校
--------	---

重点目標	1 幅広い教養と確かな学力の向上を図るとともに、新学習指導要領への対応やICT活用に取り組み、進路実現を支援する。 2 自己を律し、他者を尊重する精神と、自らが主体的・能動的に行動する意識を育成する。 3 保護者・地域との連携をとおして、開かれた学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 2 4 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 2 4 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p><現状>生徒は学習意欲が高く基本的な生活習慣も身に付いている。</p> <p><課題>生徒のICT活用による学習指導と新学習指導要領への円滑な対応を行い、進路希望を実現する確かな力を身に付けさせる。</p>	<p>○授業充実と生徒の学力向上</p> <p>○生徒が希望する進路の実現</p>	<p>①ICT機器(特にタブレット端末)を活用した授業の充実</p> <p>②観点別評価の適切な運用</p> <p>①外部機関と連携した進路ガイダンスや戦略的な模試の実施</p> <p>②英語外部検定試験を活用に向けた英語力の向上</p>	<p>生徒・保護者アンケートの授業への「自己評価」で肯定的回答が90%以上</p> <p>①生徒・保護者アンケートの「進路行事への意欲的な参加」が70%以上</p> <p>②英語外部検定試験の延べ受験者数が800人以上</p>	<p>授業充実と生徒の学力向上 授業満足度は86.6%で、昨年度より3.5%増加した。満足できない理由として、「説明が分かりにくい(49.4%)」があげられた。</p> <p>① 情報管理部を中心にICT機器の職員研修会を実施し、共通理解に取り組んだ。</p> <p>② 各学期に観点別評価を行い、適切な評定を行った。</p> <p>進路実現 ① 進路行事への意欲的な参加は79.3%で、昨年度とほぼ同じである。</p> <p>② 英語外部検定試験の受験者は延べ800人以上となり、目標を達成した。</p>	A	<p>○職員研修会をとおして、生徒の授業満足感を充実させる。特に、家庭学習を不十分と自己評価する生徒(53.7%)の解決策を共通理解し、授業での達成感を高める。</p> <p>○新しい受験体制に対応した早期キャリア教育を進め、生徒保護者の希望する進路を実現する。</p>
2	<p><現状>落ち着いた校風の下で多くの生徒が生徒会活動・部活動に取り組んでいる。一方、自ら課題を発見し、行動することは不得意な傾向がある。</p> <p><課題>組織の一員としての自覚を持たせ、自らを律する心と社会性を育成する。</p>	<p>○コミュニケーション力とチャレンジ力の育成</p> <p>○与野高生としてのプライドの育成</p>	<p>生徒会や各種生徒委員会を中心として、学校行事を企画・運営させ、自主自律の精神を育成する。</p> <p>①健康やスケジュールの自己管理をとおして、自他を尊重する精神を育成</p> <p>②登下校指導、遅刻指導、整容指導を充実させて、余裕のある学習態度を育成</p>	<p>生徒・保護者アンケートの「行事・部活動の取組」で肯定的な回答が80%以上</p> <p>生徒・保護者アンケートから、主体的に取り組む肯定的な回答が90%以上</p>	<p>コミュニケーション力とチャレンジ力の育成 学校行事への取組は95%が意欲的に取り組んでいる。</p> <p>与野高生としてのプライドの育成 98%の生徒がルールを守った学校生活を送っている。</p> <p>自らを律する心と社会性は育成できている。</p>	A	<p>○基本的な生活習慣やルールマナーは徹底されている。</p> <p>○登下校の自転車乗車のマナーを始めとして自他を尊重する精神を育成する。</p>
3	<p><現状>地域に根ざした学校として本校の教育活動が地域に理解されており、HPや保護者宛てメールも数多く更新・配信している。</p> <p><課題>地域との連携・協働的な取り組みに積極的に関わっていく。</p>	<p>○保護者・地域等の連携</p>	<p>①学校HPを充実させ、本校の特色ある教育活動を積極的に発信する。</p> <p>②あらゆる教育活動をとおして鮮度の高い情報を発信する。</p> <p>③地域連携事業等への参加者の増加</p>	<p>①ホームページの更新回数が年120回以上</p> <p>②PTA主催事業等の参加者数が年250人以上</p> <p>③地域連携事業等の参加生徒数が年100人以上</p>	<p>保護者・地域等の連携 ホームページの更新は120回を超え、PTA主催事業等の参加者は450名を超えている。地域連携事業等の生徒参加者は、100人以上であった。</p>	A	<p>○保護者との連携は深化している。HP閲覧やPTA行事参加を始めとして、各担任が日常的に保護者と連携を取っている。</p> <p>○49%の保護者が求める進路に関する情報提供や大学進学向けの講習等を行うよう企画する。</p> <p>○鮮度の高い情報を発信し、密な連携に取り組む。</p>

学校関係者評価	実施日 令和7年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業満足度 3.5%の向上は、ICT活用の授業実践の成果と言える。 ・10年前と比較すると前向きで意気込みのある生徒が増えている。 ・生徒の「説明が分かりにくい」という意見を真摯に受け止め授業改善を行うとともに生徒の理解する力と理解しようとする態度の育成が大事である。 ・家庭学習等では目標と計画、実践を意識させたPDCAサイクルを繰り返し行い、自己肯定感を高めることが大切である。 ・生徒の学校外での様子は大変落ち着き、挨拶もよくできている。学校外での日々の教員の指導の成果が表れている。チャレンジ力や与野高生としてのプライド等の強い心や生き抜く力等が現代社会では求められ、その状況にあった目標への指導の成果と捉える。 ・成功体験だけではなく、失敗を積み重ねられるカリキュラムや行事等の計画と実践が必要である。 ・授業を大切にこそその大学受験であるので、今まで以上に自主性や与野高プライドを育ててほしい。 ・部活動などでの地域連携はとてもよくできている。今後は小中高の連携や地域の高齢の方(親より上の世代)と触れ合う機会を設け、世の為人の為に自分が何をできるか考えさせる指導をしていく工夫も必要である。 ・保護者も巻き込んだ開放講座等を実施していくのもよい。 ・「鮮度の高い情報発信」を今後さらに期待する。